

防災の日 今年の防災対策

野口幹夫

8/8 九州の日向灘で M7.1 の地震があり、気象庁から南海トラフ地震臨時情報が出され 1 週間は危険に備えよと告示された。その翌日 8/9 の晩 パソコンに向かっていたら突然地震が来た。頭の上にある本棚から本が落ちそうな強い揺れを感じて、思わず南海トラフ地震が来たかとおもった。

すぐテレビで確認出来て、震源は我が茅ヶ崎の西 20K にある大井松田断層だった。ここは南海トラフではないが、いまから 101 年前の 9 月 1 日に起きた関東大震災の震源地の一つとみられているのがこの大井松田断層で 相模湾トラフの上とされている。

今は平穏な日々に戻ったが、改めていつこれが崩れてもおかしくない日本列島に生きているのだと思い入れを新たにした。最近テレビでは福井地震でのビルの崩壊の調査で軟弱地盤が発見され、これまで液状化危険ハザードマップに新しい改革が進めようとされている。

先週はその 9 月 1 日防災の日。我が家での備えを確認した。ビスケットや備蓄羊羹は期限切れだった。そこで今年は趣向を替え、備蓄用ではないが賞味期限が 1 年以上のフリーズドライ食品を手当てした。最近 NHK あさいちで詳しく紹介していたが、普通の和食の一品例えば天井などを、瞬間冷凍しそのあと。真空にして凍った水分を飛ばして作るのがフリーズドライ食品だ。装置産業で大量生産で作るから 1 食 350 円前後で安い。これらは保管し

てしまっておくものでなく、時々食べて又補充
するという準備蓄食品だ。

食べるためには熱湯がいる。停電になれば湯は沸
かせない。その時は庭で小さな焚火をしてやかん
で沸かそう。焚火材料は子供たちが遊んだ時のま
ま残っている。

これが今年の我が家のささやかな防災対策だ。

